

新人看護師の教育・指導体制を整えるための取り組み

5階西病棟 ○小山亜沙 村田義昭 野村明子 渡邊純子 毛利里香 江崎理枝

【目的】

これまでの当病棟新人看護師に対する教育体制は、単発型で数名の指導担当者が関わってきた。新人看護師が看護技術、優先順位や業務の流れ、患者・家族とのコミュニケーション方法などの臨床に対する実践方法や、業務手順を学ぶにも、指導担当者が日々単発で関わることで、自分の思いを伝えにくい現状があった。

このような新人の心理的な負担軽減を図るため、今回1年目の新人看護師教育に対して、指導担当者が1週間単位で連続して関わった。この連続型での関わりを振り返り、今後の新人看護師教育の指導方法改善に向け評価する。

【方法】

対象者：当病棟新人看護師2名、2年目看護師2名、3年目看護師1名の計5名

方法：病棟独自のアンケート用紙を作成し無記名にて回答。1. 看護ケア・看護技術に関する項目、2. 指導者とのコミュニケーションに関する項目を質問紙法で5段階のスケールにより回答。また、3. 自由記載による回答を実施した。

【結果】

1. [看護ケア、看護技術の項目] は、単発型と連続型とでは1年目と2・3年目共に「どちらの関わりでもよい」という回答であった。

2. [指導者とのコミュニケーションの項目] は、1年目は「連続型が取りやすかった」という回答が多く、2・3年目も同様の回答であった。その中に「指導者に対して緊張し、自分の意見や考え方が言いにくかった」という回答が全員にみられた。

3. 単発型と連続型とでは、2・3年目は連続型での関わりを希望する回答が多かったが、1年目は連続型での関わりに「どちらでもよい」という回答であった。

【考察】

中村¹⁾は、「就職後1カ月ごろの新人看護師の気分・感情の状態は、すでに90%近い人が健全な状態から逸脱しており、とくに緊張感や不安感が高く当惑している状況である。」と述べている。コミュニケーションにおいては、単発型での関わりでは「指導者の顔と名前が一致しないなか、毎日指導者が変わるため、1日を通しコミュニケーションの取り方に慣れても、翌日には担当が変わることで、また新たな緊張感をもって接しなければならず、ずっと緊張していた」という意見があった。新人看護師は指導者が思っている以上に緊張感が高いという事が明らかとなり、技術面よりもコミュニケーション面での配慮がより重要であることがわかった。連続型での関わりを行うことで指導を受ける側の不安や緊張が毎日少しずつ解かれ、ゆとり世代が苦手とするコミュニケーション力の向上へと繋がりを、指導者とよりよい関係性の構築が行われたと考える。

新人看護師が精神の安定を図り、極度の緊張を持つことなく指導教育を受けるには、連続型での指導が望ましいと考える。